

令和4年度

第2号

令和4年 11月発行

学校運営協議会だより

令和4年度 第2回学校運営協議会が9月16日(金)に開催されました。第2回学校運営協議会の内容をお伝えします。

1 開会のあいさつ(長谷川委員長)

新型コロナウイルスの感染者も一時より落ち着き、これから秋に向けて運動会がありますので、みなさんも学校の運営にご協力いただけたらと思います。よろしくお願いします。

2 校長挨拶(福原校長)

二学期が始まり3週目になりました。夏休みが始まる少し前から新型コロナウイルスの感染者数が増えてきましたので、夏休みのサマースクールは中止の判断をしました。夏休み中の子供たちの感染状況によっては5年生のハケ岳自然教室の延期も考えていましたが、始業式にはほぼ全ての児童がそろい無事行ってまいりました。天候が良くなかったためハケ岳の大自然を満喫するまでにはいきませんでした。子供たちは充実した3日間を過ごすことができました。二学期は運動会もあります。感染対策として保護者については入替制という形を取りながら、子供たち全員で校庭に出て応援できる運動会にしていきたいと思っています。その他に学校公開、道徳授業地区公開がありますので、感染対策を取りながら学校を開くことも進めていきたいと思っています。学校運営協議会のみなさんにもぜひ、学校に足を運んでいただいて子供たちの活動の様子、先生たちの様子を見ていただいご支援いただけたらと思います。二学期もよろしくお願いします。

3 1学期の子供たちの様子について(齋藤副校長)

4 前期学校評価について(福原校長)

上砂川小学校 HP に学校運営協議会のページを作成しました。前回の会議の記録を載せていますのでご一読ください。

一学期の学校評価の結果をまとめました。今年の学校評価は先生たちが自分達で目標を定めてそれを振り返るものにしていくと話をさせていただきました。前期では自分達が行った取り組みが子供たちにどのような成果があったか、子供たちのアンケートをもとにしながら進めてきました。今期は保護者の方々にもアンケートを取り、全体的に振り返って、最終的に評価をつけていきたいと考えています。

5 魅力ある教育課程を目指す取組について

齋藤副校長

今年度6年生が実施した全国学力調査の結果ですが、子供たちが大変がんばり正答率が例年比べ上昇傾向が見られる。東京都の平均と比べるとまだ課題は見られるが、国語、算数、理科共に正答率が全国平均と比べても遜色ないところまで伸びてきている。

総合学力調査について、私費教材で Benesse のものを購入している。大きく乖離しているところはないが、3年生の2年生の学習内容の定着に課題が見られた。課題解決に向けて朝学習や授業で振り返りを取り入れ、少しずつ基礎的な学習の定着を図っている。他の学年についても前学年の復習に取り組みさせる手段としてタブレットドリルや朝学習の東京ベーシックドリルを活用していく。

東京ベーシックドリル診断テストの結果を分析すると、学年が上がるにつれて学習内容は難しくなっているため全ての問題をパーフェクトに答えるのは難しいと考えられる。基礎的な内容について理解しているが、発展的な内容については課題が見られる。授業で発展問題に取り組むことも必要なのかなと考えている。

体力調査の結果を分析すると、平均値よりも下回っているところが多いようにも見えますが、平均値より上回っている部分もあるので伸ばしていく。運動能力が低いということだけではなく、やり方に慣れていない、教員の説明を十分に理解できていない為に数値が伸びていないということも想定される。反復横跳び、ソフトボール投げなど動きが複雑なものについては理解してやっている子供と、理解できないでやっている子供の差は大きいのではと考えられる。

8月までの不登校の状況について大きく変化はない。保護者の方とはスクールカウンセラーとの面談や、担任の家庭訪問等で連携をとっていますが不登校の解消までには至っていない。関係機関(スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育支援課)と連携を図り、不登校解消に向けて取り組んでいく。

福原校長

今年度の学校運営協議会では「学力向上・不登校対策・教員の働き方改革」について考え、ご意見をいただき来年度の教育課程でどういことを改善していったらよいのか考えていく。

教員の働き方改革について、平日については物理的に業務量が減ったわけではないので、前回の資料と比べ、大きな変化はない。7月25日から夏休みが始まりましたが、個人面談などもありほとんどの教員が出勤していた。8月に入ってから有給休暇を取る先生が増えています。この傾向を来年度の教育課程に生かしていけるように考えていきたい。また、教員の働き方に沿う教育課程を組んでいけばよいのではと考えている。

6 協議

「学力向上・不登校対策・教員の働き方改革」について

福永副委員長

わいわい広場でもボールの投げ方について野球をやっている方に指導を数回お願いしたが、教え方がしっかりしていないとうまくいかないようだ。ボールを投げるための良い道具を見つけたので、わいわい広場で購入できるようならば子供たちに使ってもらい効果があるようなら学校でも購入してみたらどうか。

平山副委員長

「学年×10分の家庭学習を指導している」とあるがどのような内容をもとにしての指導をしているのか。宿題だけをやればよいのか、プラス α を求めているのか、子供の課題に応じた学習内容なのか、家庭での学習習慣を身につけるための指導なのか。

市村主幹教諭

机に向かう時間として学年×10分は自分のためにも勉強しようとは伝えている。実際は、宿題だけになっているのではと思う。

平山副委員長

取組目標と成果目標がうまく整合性がでてこないように感じる。宿題の出し方の工夫は何かしているのか。

市村主幹教諭

どの学年も計算ドリルと漢字の書き取りを基本に宿題が出ている。学年によっては音読もある。

平山副委員長

プラス α 求めるとなると家庭の協力が必要になるのか。

福永副委員長

取組目標について成果が見えないのならば先生が子供に「学年×10分の家庭学習をしてください。」と説明することが効果的なのか。親への協力を求めるお手紙などが必要になってくるのではと考える。

福原校長

この目標は先生たちが、子供たちに学習習慣を身につけさせるために家庭学習として「学年×10分」の宿題を出そうと設定した。学年で統一して毎日宿題を出した先生が40%。逆に60%の先生は統一せず、それぞれの思いで宿題を出している。結果として、90%以上学習習慣が身に付いたと言っている子供たちは全体の30%だった。それを学年で統一したほうがより高くなるのか、このままいくのかは先生たちがどう分析して実行していくかによる。

長谷川委員長

4年生の総合学力調査の結果が良いのは何か要因があるのか。

齋藤副校長

4年生の人数が80名弱。今は2クラスだが1、2年の時は3クラスで1クラス的人数が少なかったこと。家庭学習での保護者のご協力が高く全員が必ず提出ができています。保護者の方に全ての家庭学習のチェックしていただくわけではなく、教員もチェックしているが保護者のご協力は大きかった。

学力の課題を改善するために学力調査等の分析を行い、授業改善推進プランを作っている。また、一人一台タブレットPCを活用し、タブレットドリルも有効活用をしていきたい。

長谷川委員長

先生方も分析をして取り組んでいる効果が出て、学力が良くなってきているので平均値に近づけるように頑張ってください。

齋藤副校長

全国の学力調査で秋田県の学力は高い。学力が高いのは家庭学習に起因するとされている。学校の学習を補填するものと、過去の学習内容を補充していく学習がうまく連動できれば一番良いと考えている。

福原校長

子供たちへのアンケートでも5割の子が毎日やらないと答えているので、学習習慣として身に付けさせることができるとするならば数値として伸びていく可能性は高いと考えている。

また、「学力向上・不登校対策・教員の働き方改革」に関する課題解決のために、来年度は、7月中を1学期とし8月から夏季休業、2学期開始は、9月からとすることも考えている。